

オリンピック・パラリンピックに、興味関心をもち、運動意欲の向上を目指した取組

学校名 周南市立福川南小学校（山口県）

全校児童数 221名（男子124名 女子97名）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0834（84）0012

学校メールアドレス fukumnsho@shunan.ed.jp

1 実践（研究）のねらい

- (1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、道徳授業やガイドランナー体験を通して、パラリンピックについて興味関心をもつことができるようにする。
- (2) オリンピアンを招いての運動教室・講演会、ボッチャ体験（山口レクリエーション協会）を通して、本物に触れ、実際に体感することで運動意欲の向上を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」の活用

①道徳科「公平について考えてみよう！」

車いすの友達が運動会の玉入れに参加するには、どんなルールをつくればよいかについて考えることで、真の公平とは何かについて議論した。授業開始時、「公平＝みんな同じ、特別扱いなし」というのが学級全体の意見だった。児童が発案したルールは、「他学年の友達が拾って玉を渡す」というもの。「これは、特別扱いではないのか？公平とはみんな同じという意味では？」という教師の発問に対して、「友達の苦手なことを補うのは特別扱いではない。」「真の公平とは、その人を思いやることだ。」など授業後の振り返りには、価値に対する変容が見られた。

②体育科「ガイドランナー体験をしよう！」

パラリンピックの視覚障害者はどんな世界で過ごしているのか、それを支えるガイドランナーはどんな心構えで伴走しているのかについて実際に体験した。一人では真っ暗な世界で前に進むことさえできない児童が、伴走者の存在によって安心して前に進むことができていた。最後に実際のパラリンピック視覚障害者の100m決勝のレースを視聴し、お互いが息ぴったりと前に進む姿から、そこに至る壮絶な努力・屈強な精神力に気づくことができた。

(2) 本物に触れ、実際に体験する

①オリンピアンによる運動教室・講演会

陸上十種競技、日本記録保持者の右代啓祐選手を招いての運動教室・講演会を行った。走・跳・投の実演から、本物の力と技に触れることで、オリンピックへの興味関心が高まった。また、実演するだけでなく児童と対決をすることで、すごさがより身近に感じることもできた。講演会では、競技についての話だけでなく、自らの生き方や努力についての話もあり、スポーツに関心のない児童にとっても、「夢」について考える絶好の機会になった。

②山口県レクリエーション協会と連携したボッチャ体験の実施

山口県レクリエーション協会から3名の方を招いて、全学年で出前授業を行った。ボッチャの概要・ルールについて説明があり、その後、実際にゲームを体験した。さらに興味が出た児童のために昼休みにも体育館を開放し、希望者でボッチャを楽しんだ。事後、学年対抗ボッチャ大会を開催する学年もあり、体験を通しての興味関心が続くように工夫が見られた。

○成果の意義

- 1 「I'm POSSIBLE」を様々な授業に活用したことで、パラリンピックへの興味関心のみならず、スポーツを通じたインクルーシブな社会の実現への意欲も喚起された。
- 2 本物に触れ、実際に体験することで、「もっと～したい。」「私も～になりたい。」という肯定的な思いをもつことができた。

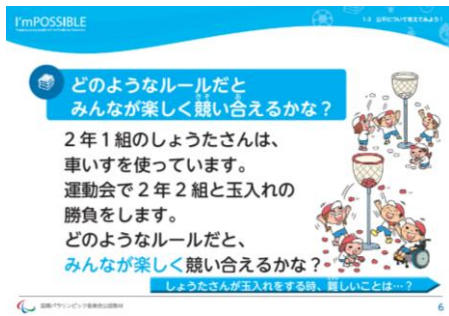
○今後の課題

- 1 教材を実践することを目的化するのではなく、学級・学校全体でインクルーシブな社会の実現に向けて考えるきっかけになるよう、教師が仕組んでいかなければならない。
- 2 著名人を呼ぶことは、児童にとって貴重な機会となることに間違いはないが、深い学びへとつながっていくよう、事前・事後の教育活動を充実させる必要がある。

○ 研究内容

【公平について考えてみよう！】

「I'm POSSIBLE」を活用し車いすの友達がどうすれば、運動会に参加できるかについて議論した。



【ガイドランナーを体験しよう！】

アイマスクを着用して走る役、ガイドランナー役、どちらも経験することでパラリンピアンへの思いについて考えた。



【右代選手のデモンストレーション】

オリンピックの迫りに歓声があがっていた。



【右代選手による講演会「夢に向かって」】

自分を信じて思い続けること、夢あきらめず挑戦し続けることを教わった。



【右代選手による運動教室・講演会を終えての児童の振り返り】

本物に触れた感動、オリンピック・パラリンピックへの思いの変容、運動意欲の高まりなど様々な声があった。

・ハードルは、私たちが高跳びするくらいの高さなのに、とても速かったし、ジャベリックボール投げは、学校から出るくらい投げていたし、高跳びは先生の身長ぐらいを軽く跳んでいたし、何もかもがすごすぎで、びっくりしかありませんでした。本当によい経験ができて大大満足です。

・ぼくは、本物のオリンピック選手に会えるなんて、夢のようでした。こんなにすごい人たちが集まる東京オリンピック・パラリンピックが今まで以上に興味をもてました。日本も他の国も応援してみたいです。

・右代さんのお話を聞いて、1つのことにすごく一生懸命取り組んでいることがよく分かりました。「あきらめなければかなう。」ということが心に残っています。私も夢を見つけたら、本気で目指していきたいです。

【今後の取り組みについて】

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を終えて

今回、オリンピック・パラリンピック教育推進校として、子どもたちの興味関心、運動意欲の向上に少しでもつながっていくよう計画を進めていった。オリンピックを通して、本物に触れることはもちろん大切な経験となるが、地域のスペシャリストを招いたり、様々な授業でオリンピック・パラリンピックに触れたりするだけでも十分な機会となるように思う。またとないう2020年に向けて、みんなでスポーツを「する」「観る」「支える」雰囲気来年も継続してつくってきたい。